

平成 17 年 度

事 業 報 告 書

平成 18 年 5 月 26 日

社 会 福 祉 法
陽 光 福 祉



平成17年度 社会福祉法人陽光福社会 太陽の子保育園の事業報告を、
次の通りまとめましたのでご報告申し上げます。

社会福祉法人 陽光福社会

理事長 大庭 正宏



はじめに

平成13年4月に開園した当保育園も、今年度で5周年の節目を迎えました。創立園長の死去という悲しい出来事がありましたが、全職員の頑張りやと団結によりこの悲しみを乗り越えて、ここまで大過なく保育園の運営ができたことに対し、職員一人一人に心からの感謝をする次第です。

さて、今年度の大きなトピックとして、東京都の指導検査が3年ぶりに行われた(1月)ことと、当園の園長が、11月に開催された第11回はむら保育展の実行委員長を担当したことが挙げられますが、この二つについても、次の月別の特記事項に記したように、共に良い結果を示すことができました。

また、保育園の経営については、国の補助金の交付金化(次世代育成対策ハード&ソフト交付金)、さらに東京都の補助金も平成18年度から子育て推進交付金へと制度変更されることとなり、保育園経営を取り巻く環境が非常に厳しさを増す不安が増大しています。こうした状況下にあつて、今年度は従前に比べ一段と厳しい経営を迫られたが、おかげさまで17年度の決算は小額ではあるが300万円の積立て預金を生み出すことができました。

さて、今年度を月別の特記事項で振り返ってみると、

4月 ・4月1日付の入所児童数は、全体で108名と定員未達。特に0歳児が10名と定員の15名に対し5名であり、今年度の経営状況の厳しさを示すスタートとなった。

- ・昨年度実施した2F事務所増設に伴う定款変更認可証が発行され、4月26日都庁で受領。
- ・第11回はむら保育展の第1回園長実行委員会が開催され、当園の園長の実行委員長としての活動が始まった。

5月 ・5月7日(土)の親子遠足が雨のため中止となり、非常に残念であった。

- ・5月21日(土)西保連の第56回総会が、あきる野ふれあいセンターで行われた。当園の園長が議長を務めた。
- ・5月27日(金)6:00から漆原智良先生をお招きして、職員研修会を開催した。「21世紀の幼児と保育」との題で、ご自身の数奇な運命と各種の感動的な出会いの半生を通してのお話や、子どもと絵本・子どもへの接し方などについて話され、豊かな感性を育てる保育の実践について、示唆に富む素晴らしい講演をしていただいた。

6月 ・中学生の総合学習として職場体験が盛んであるが、当園にも瑞穂第二中学校から受け入れ要請があり、6月9・10の二日間2年生5名が保育お手伝いの職場体験を行った。午前中の二日間と短い期間であったが、全員が子どもとのふれあいに新鮮な感動を受けたようで、一人の男子生徒は「保育士になりたいなと思いました」と感想を寄せるなど多くを学んだようでした。

- ・羽村私立保育園協議会主催の職員研修会が6月9日コミセンで開催され、当園の職員も多数参加した。「子育ての展望 次代を担う子どもたちへ願うこと」との題名で、子どもの人権専門委員・人権擁護委員の平 清太郎氏の講演会で、子どもに対する虐待問題を取り上げる中で、
・相手の心に寄り添いなさい
・人間の尊厳を守ることの大切さ
・相手の話をしっかり聞くこと(共感) などの大切さが印象に残った。

7月 ・7月16日(土)当園三大行事の一つSUNSUNまつりを、好天に恵まれた中で盛大に開催した。内容的には昨年同様に、青梅市長渕の囃子連のお囃子がお祭りムードを盛り上げ、近隣の婦人会の方の盆踊り、子どもたち手作りのおみこし、そして焼きそば・ポップコーン・飲み物・ヨーヨー・紙花火の模擬店を開き、大いに楽しめる夏祭りが開催できた。

- ・開園以来パート保育士補助として働いてきた市川有里子さんが、更年期からくる体調不良が続いていたが、このままでは仕事を続けるのは無理と本人が判断し、7月一杯で退職する事になった。(実際の正式な退職日付は11月15日付である)
子どもが好きでやさしさのこもった市川さんの保育は、保育士補助としてとても良い面を持ち合わせており居て欲しい人であったが、体の事ゆえやむなし。

- 8月 ・今年度の事業計画のなかで、施設整備計画事項として取り上げていた「外壁保護のための塗装(ランデックスコート)と太陽の子保育園の看板取り付け工事」が8月中旬完了した。400万円の工事費となったが、将来を考えたとき外壁塗装(吹き替え)は有効であると確信するし、看板は駅前通から良く見えて好評であり良かったと思う。
- 9月 ・0歳児室の外側に「ウッドデッキ」が欲しいとの要望があり予算執行状況を検討したところ、50万円程度であればやれそうであることから、12月の理事会で第一次補正予算案として事後承認をいただくことで実施させていただいた。結果としては、投資対効果は非常に高く設置したウッドデッキで喜んで遊ぶ0歳児の姿をみると、作って良かったと思う。
- ・敬老の日が9月19日であることから、今年から近隣のお年寄りを保育園に招待して「園児とのふれあい昼食会」を開催することとした。9月14日(水)11:00から12:30ホールで行い近隣のお年寄り8人が参加し、ライオン組&くま組の園児と一緒に昼食を食べ楽しいひと時を過ごした。この催しは今後も続けていく予定である。
- 10月 ・第5回親子運動会を10月8日(土)に開催した。従来まではお弁当持参で行っていたが、今回から12:15終了予定とし、昼食は各家庭でとってもらうようにした。(リーダー会での検討)また、従来借用出来ていた駐車場(第2秋山パーキング)が一切借りられなくなった。この駐車場利用不可については心配したが、お弁当なしもあってかそれほどの混乱・苦情も無くホットした。競技については、「玉入れ」、「綱引き」を始めて取り入れた他はほぼ例年通りであったが、天候にも恵まれ大成功の運動会であった。
- ・去年に引き続き第2回目となる「おいも掘り会」を10月28日(金)に実施した。翌日の29・30の土日で羽村市の男性保育士で結成するホップの会で、氷川キャンプ場でキャンプ研修会が開催され、当園では福田、野口の両男性保育士と大庭園長が参加した。
- 11月 ・第11回はむら保育展が11月19・20(土日)で開催された。今回の保育展は、大庭園長が初の実行委員長として苦勞をされたが、集客人数・アンケート結果等から大成功の保育展となり良かった。なお、当園の実行委員として栗原 美紀保育士が1・2歳児室を担当した。
- ・西保連のレクリエーション大会が11月12日(土)羽村フレッシュランドの体育館で開催された。今年はビーチボールバレーの大会で、当園も選手団が張り切って参加したが、1回戦は勝ったが残念ながら、2回戦で破れ入賞は出来なかったが、楽しい1日を過ごし親睦を深めた。
- 12月 ・12月4日(日)割烹かわむらで理事会を開催した。今年は役員改選も無く、第二次補正予算を審議して頂いた後は1年のご尽力に感謝しての慰労会を楽しく行った。
- ・12月10日(土)第5回サン太おたのしみ会を羽村市コミュニティーセンターで開催した。昨年と同様「たまご座」の演奏と4、5歳児の歌&楽器演奏、職員の出し物を中心に行ったが、参加した親子の満足そうな姿から成功の催しとなった。なお、おたのしみ会終了後、開園5周年の節目を迎えることから割烹かわむらで一泊(希望者)の研修懇親会を開催した。ほぼ全員が参加し(一泊は22名)今後の10周年に向けて互いに力を合わせ頑張る決意を確認しあった。
 - ・12月21日(水)におもちつき会を開催したが、今回は屋内ホールで餅つきをした。天候を心配することが無いのと、動きがスムーズなことなどで、今まで行っていた屋外より良い結果であるとの感想が多数の職員から聞かれた。
- 1月 ・東京都の指導検査が1月18日(水)に行われた。前回は平成14年の7月14日であり、2年半ぶりの実施である。現園長になってからは初めての指導検査であったが、文書による指摘事項は無く無事終了した。ただし、口頭による指導事項が12件あったが、これについてはほぼ現時点でクリアしている。
- 2月 ・昨年に引き続き、この4月に小学校に入学するライオン組園児20名の富士見小学校への見学会を2月13日(月)に行った。校長・副校長先生のご好意で親切に見学させていただき、参加した子どもたちに1年生になる喜びを実感できた素晴らしい見学会となった。
- 3月 ・3月24日(土)第5回卒園式を行った。卒園児20名の今後の更なる成長を祈る。

法人関係

①役員会会議

- | | |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・5月26日(木) 監事による監査 | ・井上、中園 両監事による監査の実施 |
| ・5月26日(木) 第1回定例理事会 | ・平成16年度決算報告書(案)承認の件
・平成16年度事業報告書(案)承認の件 |
| ・12月4日(日) 第2回定例理事会 | ・平成17年度第一次補正予算(案)承認の件
・報告事項 |
| ・3月30日(木) 第3回定例理事会 | ・平成17年度第二次補正予算書(案)承認の件
・平成18年度資金収支予算書(案)承認の件
・平成18年度事業計画書(案)承認の件
・就業規則の一部変更について |

②施設整備について

(1)園舎の外壁保護のための塗装(ランデックスコート)工事&看板の取り付けの件

看板込みで4社(島崎建設・奥多摩工業・佐久間建設・井戸鉄建)に見積り依頼をしたが、井戸鉄建が400万円で最安値であり工事を依頼した。前述の月別特記事項ー8月のところで述べたとおりであり、約1ヶ月超の工事期間であったが、事故等の問題も無く無事完了し良好な工事結果を得られた。

(2)2Fの一時保育室と1Fの2歳児室(うさぎ組)の入れ替え検討の件

本件について羽村市児童課に相談したところ、当園開設時一時保育室としての補助により広い保育室が設置できているので、これを変更するためには東京都の許可ならびに補助金の返還が必要になると思うとの見解が示され、実質的に困難であることが判明した。このため、本件については残念ながら白紙に戻さざるを得ないこととなった。

(3)ダムウエーターの前の保護柵が壊れやすいので、頑丈な造りに変更する件

これについては安全確保のための緊急性が必要と判断し、平成17年3月31日工事を完了した。扉を一枚板にするのと、背丈を高くして子どもが登れないようにすることによって、大きく改善し現状一年たったが非常に有効な改善工事となった。

(4)事業計画に載っていない追加の施設整備の実施状況について

①0歳児室外側のウッドデッキについては、前述の月別特記事項ー9月で述べた通り。

②3F園長室建具撤去工事・・・これは園長室と職員休憩室との間にドアがあり、園長室にある応接間での保護者との個人面談の話し声が、休憩室に筒抜けとなっている弊害を改善するための工事である。

③監視カメラ及びインターホン増設工事・・・この工事は、最近の不審者事件の増大等の社会問題の拡がりから、公的補助45万円を受けて実施した(3月18・19日)工事である。駐車場から園の敷地に入る扉付近の入出者の監視用カメラを付け、事務所で常時モニター監視出来てビデオテープで記録できる。インターホン増設は、延長保育室として使用しているペンギン組にも、保護者が玄関で鳴らすチャイムの音が聞こえるようにした工事である。

④その他 ・厨房内の水栓取替え工事・・・衛生上の観点から、自在水栓に取り替えた。
・廊下の手摺りの増設工事・・・2歳児室の荷物掛け用に増設と1歳児室の荷物掛け増設のために行った。

職員関係

①職員構成と職務分担

事業計画で示した「職員構成と職務分担(園児のクラス編成)」に記載されている職員のうち、7名の職員が退職した。退職者は全員が非正規職員である。今回7名と多いのは、中野・吉田・前田の3名が育児休業を終え、平成18年度から出勤することに伴うところが多い。

- ①村野 美佳は、延長保育対応のパート保育補助職員で、出産のため5月19日付退職
- ②市川 由里子は、月別の特記事項一7月で述べたとおり11月15日付で退職
- ③今野 さゆりは、厨房のパート調理員で、瑞穂にある会社に正職員として採用され退職
- ④小島 伸子は、秋草学園の夜間に通いながら朝7時から午前中パート保育補助として、3年半の長きに亘り良く頑張ってもらったが、学校を卒業して保育園に就職して退職
- ⑤鈴木 道子は、当園開設以来5年間の長きに亘り休日保育ならびに延長保育のパート保育士として地道に頑張ってもらったが、このたび目出度く結婚されることになり退職
- ⑥当麻 敦は、保育士の国家試験の合格を目指しながら当園で2年3ヶ月、子どもたちに大人気の延長保育担当のパート保育補助として働いてもらったが、国家試験にも合格しこの度町田市の乳児院に就職が決まり退職
- ⑦田切 美穂子は、まつの木保育園を退職し、平成17年4月より育児休業対応の常勤パート保育士として採用し、1歳児(ペンギン組)の担任として1年間働いてもらった。子どもへのやさしさに満ちた保育で頑張ってもらったが、途中で家が中野に引っ越したこともあり、近くの公立保育園に短時間パート保育士として採用され退職

②職員会議の予定と、職員の健康管理これについては、ほぼ計画通りに開催し実行した。
なお、職員の健康診断を駐車場で新町クリニックの検診車でやり(2回目)、楽になった。

③研修について 詳細は、研修報告書に記載されているので、ここでは概略を記す

- ・5月
 - ・特定給食施設栄養管理講習会(西多摩保健所) 1名
 - ・運動会実技研修会(和久井教員) 2名
 - ・漆原 智良先生による、園内職員研修講習会 25名参加
 - ・春の園長研修会(三保連) 1名
- ・6月
 - ・特定給食施設栄養管理者講習会(西多摩保健所) 2名
 - ・臨床心理士による勉強会(羽村市子ども家庭支援センター) 1名
 - ・羽村私保協職員研修会一平 清太郎氏「子育ての展望」 5名
 - ・澤井先生を囲んでの相談会(西保連一統合部会) 2名
 - ・特定給食施設栄養管理講習会(西多摩保健所) 1名
 - ・幼稚園・保育園 歯科指導者研修会(西多摩保健所) 1名
 - ・プールの衛生管理について(西多摩保健所) 1名
 - ・食品衛生実務講習会(西多摩保健所) 1名
 - ・栄養管理者講習会(西多摩保健所) 1名
 - ・「乳児にとって幸せ一杯ぬくもり一杯明るさ一杯の保育とは」(西保連) 1名
- ・7月
 - ・食品衛生実務講習会A(西多摩保健所)
 - ・平成17年度保育技術協議会「2日間:4テーマ」(東京都福祉保険局) 1名
- ・9月
 - ・育児保険の勉強会(三保連) 1名
 - ・お話の世界一かこ さとし先生(西保連) 2名
 - ・西保連一給食部会研修会(西保連) 1名
 - ・栄養管理講習会一保育園における食育の実践について(西多摩保健所) 2名
- ・10月
 - ・「私たちの保育を見つめる」小沼 肇先生(西保連総会での講演会) 7名
 - ・施設見学会一ヤクルト本社裾野工場他(福生地区特定給食研究会) 1名
 - ・気になる子への対応について一澤井先生相談会(西保連) 1名

- ・11月
 - ・嘔吐物の処理について(西多摩保健所) 1名
 - ・感染症予防プロモーター研修(西多摩保健所) 1名
 - ・三保連経営講座(三保連) 1名
 - ・調理実習(西保連) 1名
 - ・平成17年度保育所保育実践研修会「2日間で3テーマ」(日本保育協会)2名
 - ・民間保育所職員としての気づきについて(西保連一職員研修会) 2名
 - ・アトラー博士の子どもを勇気付ける20の方法一星一郎氏(羽村私保協)
 - ・平成17年度男女共同参画研修会(羽村市) 2名
 - ・保育所経営セミナー(独立行政法人福祉医療機構) 1名
- ・12月
 - ・「子どもへのまなざし」佐々木 正美先生講演会(羽村たつの子保育園)1名
- ・1月
 - ・施設見学会「東京都あきる野学園」(西保連統合部会) 2名
- ・2月
 - ・施設見学「森永乳業 多摩・大和工場」(羽村市保育園栄養士会) 1名
 - ・栄養管理講習会(西多摩保健所) 1名
 - ・食物アレルギーについて(西保連) 1名

以上 平成17年度の、研修実績です。

児童処遇関係

①園児のクラス編成

- ・適正であり、特に問題は無かった。産休・育休対応についても、力のある産休対応パート保育士を充当できた。5歳児(ライオン組)は、気になる子が4名(障害児加算申請児童が3名+1名)在籍し、クラス担任の柏木tの他に障害児担当として中田tを配置してクラス運営をしてもらったが、年長になり健常児との差が大きく開き二人で担当しても非常に大変な状況であった。その中で、担任二人が力を合わせ確かな保育をして卒園させて頂いた努力に感謝する。この4人をはじめ卒園児20名が一人も洩れなく小学生として立派に成長してくれることを心より祈る。

②児童の健康管理

- ・計画どおり実施。感染症については、1月から2月にかけて園児が23名・職員が6名インフルエンザに罹り、例年よりも多かった。但し、この人数も足かけ2ヶ月かけて各クラスに分散しての発症数であり、特別対応を必要とする状況までには至らず終息した。
- ・投薬についてミスが発生(対象園児への影響は大事には至らなかったが)した。原因は、預かった薬の保管方法に問題があった。このため、事務所で誰が見てもすぐ判るように透明なポケットの付いた薬入れを吊り下げて、ここに入れるように改善した。
- ・園独自に作成した感染症マニュアルの暫定版が出来たので、今後これを更に完全なものにしていく。なお嘔吐物処理の処理について、各クラスに処理用の器材を設置し、職員会議で花田看護師が実演して、参加者全員が処理方法をマスターする研修を実施。

③給食実施

- ・内容的には、指導方針どおり実施した。給食内容向上のため、毎回の職員会議で、給食担当として翌月の献立計画ならびに前月の給食実施の反省等を発表する場を設けていただき、給食と保育の連携の向上を図った。また、クラス担任と厨房の担当者間で話し合いを持ち、残菜が少しでも少なくなるようにするための協力を確認しあうと共に献立内容についての意見交換を行い、担任の意見も献立に反映させられるように検討した。なお、子どもたちが、作ることや食べることが身近に感じるようになるよう、毎週給食の先生と食事をすることや、毎月1回給食時間におにぎり作り、調理保育では、年度当初に予定を立てて、調理師も一緒に参加できるようにした。
- ・栄養業務としては、季節感のある材料やメニュー、行事食、残菜表での嗜好の把握を考慮し、食品構成をもとに栄養価の過不足がないよう献立作成を行っており、なるべく手作りを心掛けている。なお、2F事務所に栄養業務の出来るパソコン設置

とソフトのバージョンアップもしていただき業務効率が大幅に向上した。これによって、今までなかなか目の届かなかった一時保育の子どもたちの食事の様子や、0歳児・アレルギー児への対応も細かく出来るようになったし、離乳食初期の大切な時期の個別対応（それぞれに献立票を書いて渡す）も出来るようになった。

- ・衛生面については、検便の毎月実施、O-157対策、の炉ウイルス対策等やるべきことは抜けの無いようキチン行っており、問題の発生はありませんでした。厨房設備面では、昨年度のゴミサーの設置や、グリストラップ清掃の業者委託が大きな改善効果を生んでいる。また、今年度はダムウェー前の扉交換工事や水栓取替え工事を実施していただき、安全面や衛生面の向上に大きく寄与している。
- ・食育（調理保育等）については、調理保育では、年度当初に予定を立てて、調理師も一緒に参加できるようにして昨年度に比べ回数、内容ともに大きく向上した。じゃがいも&芋掘りが園行事としてできるようになり、園全体で貴重な経験ができる良い場で、じゃがいもや芋を使った調理保育も出来た。これからも継続して育てられる食物などを作っていきたい。子どもたちが食べ物や、それを作ることに興味を持ち、食事の大切さ、楽しさを感じられよう栽培や調理などを通して教えていきたい。

④保育について

- ・年間行事計画については、5月7日（土）の親子遠足が雨のため中止になったことと、3月10日（金）のお別れ遠足が雨のため3月15日（水）に変更になったこと以外は計画どおり。
- ・行事については、3ページの「はじめに」で、ほとんどふれているので省略する。なお、プール開きは従来から7月1日にしてきたが、最近では地球温暖化の影響もあるのか、6月後半に暑い日が多くなっているため、来年度は一週間前倒したほうが良いと思う。
- ・老人施設「グリーン東京」へのライオン組さんの訪問が、毎月一回となって2年目であるが、お年寄りの皆さんが喜ぶ顔は、本当に子どもの力というしかないと思う。毎年訪問していても、1年ごとにライオン組のメンバーは代わるので、現在くま組の子どもたちは進級して訪問するようになることを楽しみにしている。お年寄りとのコミュニケーションをとるのが上手な子、苦手な子、またお年寄りの方も元気で子どもに上手に接してくれる人、難しい人とさまざまであるが、年長の子どもたちにとってお年寄りの優しさやふれる経験は、大変有意義なものになっている。
- ・2月22日（水）村山中藤保育園に大庭園長と福田・野口両男性保育士の3名で、施設見学に行った。見学の主目的は、巧技台を使っての「運動あそび」の実施状況の視察である。設備的にも多目的ホールと称していたが、就学前児童用体育館とも言うべき立派な建物の中で、子どもたちが先生の指導の下喜喜として運動あそびを行っていた。当園の子どもと比べると、運動能力は遥かに優れている状況である。巧技台を買えば出来るというものではないので（広い屋内場所や指導者の問題）、簡単にはいかないが、当園の3・4・5歳児に対しての身体づくり、運動能力の向上について改善を図る必要性を痛感した。今後、こうした面での保育のあり方を検討していきたい。

災害対策（計画通り実施）

- ・平成16年度の避難訓練の実施記録簿は、別にあり
- ・防災設備等の保守点検実施記録は、別の記録簿に記載
- ・非常用品購入（施設機能強化推進費を充当）は次の3点である
1) 発電機 2) ハロゲン投光器セット 3) 防水シート

保護者との関係（計画通り実施）

- ・保育懇談会は0歳児（ひよこ組）について、6月11日（土）保護者全員が参加して実施した。クラス担任5名と栄養士（離乳食について）、看護師が出席していろいろな面からの説明、質疑応答、などなど活発な意見を交わしての、有意義な懇談会となった。
- ・ひよこ組以外は、クラス一斉の懇談会は行わず、個人面談を実施。年間をかけて、各クラス別に子どもの状況などを勘案して面談日程を決めて行った。なおこの個人面談で最も気を使い苦労したのが、障害児加算申請対象の児童3名の保護

者との面談で、普通学級の一年生としてやって行けるのか非常に心配な子ばかりであるが、保護者としては我が子に多分心配を抱きながらも認めたくない気持ちが前面に出てしまい、なかなか就学相談を受けるような状態ではない。
このため、教育委員会の担当者や就学する学校の関係者と連携をとり、就学時対応を考えていただくことにした。

- ・苦情受付では、4月12日から3月8日までに全部で8件の苦情を受け付けたが、適切に対応して解決した。詳細は、苦情記録簿に明確に記録済み。

地域社会との関係

- ・地域のお年寄りを保育園にお招きしての「園児とのふれあい昼食会」を新規に企画し、近隣のお年寄りの居るご家庭に喜んでいただいた。全体的にもほぼ計画どおり実施した。地域住民の方々の行事参加により、保育園の地域での役割を少しでもご理解していただけたと思っている。なお、地域活動補助金が今年度からソフト交付金化され地域活動に対する補助金の支給が危ぶまれたが、今年度は羽村市として支給することが決まり当園には50万円の支給決定が通知された。注：18年度はどうなるか未定とのこと

特別保育事業の実施状況について

1) 延長保育(18:00～20:00までの2時間延長)利用人数の推移・・・1日あたり平均利用人数

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
1H延長	10人	15人	7人	7人	7人
2H延長	11人	12人	14人	11人	10人
合計	21人	27人	21人	18人	17人

- ・平成16年度から2年連続して1日当たりの平均利用者数が合計で20人を切ってしまった。補助金のランクが、20人以上と未満では大きく違うため、16・17年度の補助金は従来に比較して、約150万円の減額となり、旧国基準分＝2,148,000円、と基準分＝2,100,000円で合計＝4,248,000円の支給である。

2) 一時保育(休日を除く月曜日～金曜日の8:30～5:00)利用人数の推移・・・月当たり平均人数

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
両方で		52人	40人	23人	14人
半日保育					
一日保育	74人	99人	118人	112人	89人
合計	74人	150人	158人	135人	103人

- ・平成16年度が平成14・15年に比べ、約20人の減少となっているが、今年度(H17)は更に減少し合計人数が103人と16年度に比べ32人/月の減少となってしまった。
5月16日児童課に聞いたところ、平成16年度は羽村市全体で2500人(当園＝1624人)、17年度は100人増えて2600人(当園＝1237人)とのことである。こうしてみると、17年度はすでにたつの子保育園より100人以上少ない状況であり非常に残念である。
一時保育の利用についての広報活動をもっと積極的に展開するとともに、一時保育の申し込みに於ける対応面でも、改善すべきところの洗い出しを行い積極的に利用者の拡大を図っていくよう取り組みを強化して行く。

3) 休日保育(日曜日・祝日)利用人数の推移・・・月当たりの延べ利用人数

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
休日保育	26人	27人	27人	23人	25人

- ・16年度に比べ月当たり2名の増となったが、これを休日保育実施日の1日あたりの利用者数で云うと、4人から5人の利用者であり少ない。なお、この利用者の中で、利用料減免者が約半数いる。こうしてみると、休日保育の利用ニーズはあまり多くないと思わざるを得ない。
このためか？平成17年度から補助金体系が変わり、平均利用児童数が3人/日以上であれば一箇所当たり1,524,000円/年の補助金が出るようになった。

4) 地域子育て支援センター事業の実施状況について

- ・利用人数は毎月110人平均である。育児不安等の相談件数も毎月平均12件あって担当保育士が丁寧に対応している。若干サークルへの参加希望者が減少してきているが、サークル活動の支援も全力で取り組んでおり、地域の子育て家庭に対し大きな力となっていると思っている。